

IPM実践指標モデル(茶)(案)

資料7

分類	管理項目	管理のポイント	点数 (注1)	チェック欄(注2)		
				昨年度 の実施 状況	今年度 の実施 目標	今年度 の実施 状況
予防	適正な品種の選択	炭疽病や輪斑病等の常発地帯では、改植・新植する場合に抵抗性の強い品種を導入する。(注3)	(1)			
		クワシロカイガラムシの常発地帯では、改植・新植する場合に抵抗性の強い品種を導入する。(注3)	(1)			
	ほ場周辺の環境改善	ツマグロアオカスミカメ等の害虫の増殖・飛来源となる雑草や樹木を除去する。	1			
		炭疽病やもち病の多発地帯では、ほ場が陰湿にならないよう可能な限り周辺の林木を伐採したり枝管理を行う。	1			
	雑草対策	各種資材や敷き草等でマルチングすることで雑草を抑制する。	1			
判断	病虫害発生予察情報の確認(必)	病虫害防除所が発表する発生予察情報を入手し、確認する。(注4)	1			
	病虫害や天敵の観察(必)	ほ場には必ずルーベや虫見板を持参し、病虫害や天敵の発生状況や生態を観察する。(注5)	1			
	雑草の観察	ほ場と周辺の雑草の状況(草種、発生量)を観察、把握する。	1			
	炭疽病	伝染源の密度や感染期の降雨状況さらには品種の抵抗性度合いを考慮し、適期防除に努めるとともに過剰防除は行わない。	1			
	もち病	伝染源の密度や感染期の降雨状況さらには品種の抵抗性度合いを考慮し、適期防除に努めるとともに過剰防除は行わない。	1			
	輪斑病	摘採あるいは整枝の1日後までに防除する。やぶきたなど本病に弱い品種以外は防除をしない。	1			
	ハマキムシ類	地域内あるいは近隣地域に設置された誘蛾灯やフェロモントラップの成虫誘殺状況を確認し、適期防除に努める。	1			
	チャノホソガ	地域内あるいは近隣地域に設置された誘蛾灯やフェロモントラップの成虫誘殺状況を確認、または、新芽への産卵状況を把握し、適期防除に努める。	1			
	チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ	新芽生育期の発生状況を把握し、萌芽～開葉期の適期防除に努める。	1			
	クワシロカイガラムシ	有効積算温度法や粘着トラップ法等により幼虫のふ化最盛期を確認し、適期防除に努める。	1			
ハダニ類	常に発生状況と気温の推移に留意し、急増する前に防除を行う。	1				

防除	生物的防除	ハマキムシ類	性フェロモン剤の使用	性フェロモン剤を団地単位で積極的に導入する。(注6)	1				
			生物農薬の使用	病原性ウイルス剤(GV)やBT剤を使用する。(注7)	1				
		ヨモギエダシヤク	生物農薬の使用	発生している場合には、BT剤を使用する。(注7)	1				
		クワシロカイガラムシ	土着天敵の保護(必)	寄生蜂等の天敵に影響が少ない農薬の使用を心がけるとともに、天敵の活動時期に影響の高い農薬の使用を控え、その活動を保護する。(注7)	1				
		カンザワハダニ	土着天敵の保護(必)	ケナガカブリダニ等の天敵に影響が少ない農薬の使用を心がけるとともに、天敵の活動時期に影響の高い農薬(ピレスロイド剤等)の使用を控え、その活動を保護する。(注7)	1				
		ナガチャコガネ	生物農薬の使用	発生している場合には、BT剤を使用する。(注7)	1				
	物理的防除	炭疽病	せん枝	2番茶収穫後にせん枝を実施し、以後の発生を抑制する。	1				
		赤焼病(幼木)	防風ネット	強風による発生を軽減するために、防風ネットを設置する。	(1)				
		クワシロカイガラムシ	せん枝	多発茶園では一番茶摘採後に中切り更新し寄生部を除去するとともに樹勢回復を図る。	1				
			スプリンクラー散水	クワシロカイガラムシのふ化期に、茶の枝が常に濡れた状態になるように、スプリンクラーで断続的に2週間程度散水する。(注8)	1				
		雑草	マルチ・敷草・機械除草	マルチ(定植時)やうね間の機械除草、敷草等の除草剤を使用しない雑草管理対策を実施する。	1				
	化学的防除	農薬の使用全般(共通)(必)	薬剤の選択	個々の農薬の効果特性を理解するとともに、天敵類に影響の少ない薬剤を選択する。 農薬を使用する場合には、同一成分や同一系統の農薬を繰り返し使用しない。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は当該地域では使用しない。(注9)	1 1				
			散布量の決定	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する(薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する。)	1				
		散布方法	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。 防除は早朝か夕方無風～弱風時を選んで行う。	1					
		散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。	1					
		その他	作業日誌(必)	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1				
	研修会への参加		都道府県や農業協同組合が開催するIPM研修会や防除研修会等に参加する。(注10)	1					
						合計点数 () (注11)			
						対象IPM計 () (注12)			
						評価結果			

- 注1 :点数については、基本的に一管理ポイントにつき1点とすることが望ましいと考えるが、各都道府県において、特に普及・推進すべき管理ポイントがあれば、点数を2点とするような評価を行っても差し支えない。
また、毎年度実施する必要がない項目には()を付した。本項目については、実施した場合に加点し、その他の年度は「-」と記す。
なお、地域段階での取組を評価することが望ましい管理ポイントについては、地域での取組が一定割合を超えるような場合には、点数を2点とするような評価を行っても差し支えない。
- 注2 :チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントが当該農家にとってチェックの対象外であった場合は「-」と記す。
- 注3 :抵抗性の低い品種としてやぶきた等が挙げられる。
- 注4 :現在、農家に提供している発生予察情報の利用を管理ポイントとし、利用したことが後でチェックできるように当該情報をファイルする等した場合に点数を付けることができる。
- 注5 :小型害虫(ダニ類、カイガラムシ類、アザミウマ類)の発生確認のため、ルーペを持参する。
なお、農業者が病害虫の発生を確認する際の参考とするため、主要な病害虫の写真をIPM実践指標に添付することが望ましい。(後日添付)
- 注6 :大面積の処理が有効であり、小規模の処理では効果が期待できない。
- 注7 :天敵に影響が少ないといわれる農薬でも、天敵群によっては影響を受ける場合がある。また、悪影響があっても残効性が短いため、天敵の活動への影響が少ないものもあるので、農薬の散布時期と特徴を考慮して剤を選定する。
なお、生物農薬の使用は天敵類の保護のみならず、薬剤抵抗性発達の遅延等にも有効であるが、防除効果は施用法や病害虫の発生量等の影響を受けやすいので、剤の特徴を十分把握して施用する。
- 注8 :散水に十分な水量が確保できることが前提となる。
- 注9 :各都道府県の病害虫防除所等で把握している薬剤抵抗性の発達状況から、その農薬の使用を控えることが望ましい場合は、当該農薬の種類を実践指標で明示すること。
- 注10 :研修会等において地域に発生する主要天敵、農薬の特性、薬剤抵抗性の発達状況等の説明も行う。
- 注11 :毎年度実施する管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数を記入し、毎年度実施しない管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数は()内に記入する。例 20(3)
- 注12 :毎年度実施する管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を記入し、毎年度実施しない管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を()内に記入する。例えば、農薬を使用しない場合の「農薬の使用全般」の管理ポイントの点数は対象にならない。例 20(3)

茶の I P M実践指標モデル案作成について

東海農政局消費・安全局安全管理課、植物防疫課

- (1) 実践指標モデルの様式は、既作成の水稲、キャベツ及びカンキツに準じ、静岡県の茶の指標モデルを参考とした。
- (2) 指標モデル案作成に際しては以下の点に留意して行った。
- ・茶は他作物と比較して技術の数はそれほど多くはなく、病虫害も全国的に共通している傾向にあるため、地域性の高いもの、技術としての確立が疑わしいものは極力除き、標準的と思われる技術をもとに管理項目等の作成を行う。
 - ・茶は栽培形態が多数存在するが、せん茶（通常の栽培方法）でのモデルを作成するものとする。

茶 I P M実践指標モデルの概要

【判断】

(防除要否、タイミングの判断)

- 病虫害発生予察情報等の確認
- 病虫害や天敵の観察
- 個々の病虫害の防除要否の判断

【予防】

(病虫害・雑草の発生しにくい環境の整備)

- 適正な品種の選択
- ほ場周辺の環境改善
- 雑草対策

【防除】

- 生物的防除(生物農薬の使用、土着天敵の保護等)
- 物理的防除
- 化学的防除(農薬の適正使用)

【その他】

- 作業日誌の記帳
- 研修会への参加

※補助資料として主要病虫害の写真を添付するものとする